

自社事業を活用した企業市民活動

—新興国・途上国の社会課題解決に向けて

パナソニック(株) ブランドコミュニケーション本部
CSR・社会文化グループ
グループマネージャー 小川理子

パナソニックは、「産業人たるの本分に徹し、社会生活の改善と向上を図り、世界文化の進展に寄与せんことを期す」という創業以来の経営理念のもと、全世界で様々な事業を展開させていただくとともに、各地域での企業市民活動も積極的に実践している。

近年は、CSV (Creating Shared Value: 共有価値の創造) という言葉に象徴されるように、社会価値と経済価値の双方を高める企業活動が CSR の動向として注目されている。本稿では、自社の事業を活用した企業市民活動の事例として「ソーラーランタン 10 万台プロジェクト」「新興国プロボノなど社員参画の活動」を紹介する。

ソーラーランタン 10 万台プロジェクト

2012 年度から弊社創業 100 周年を迎える 18 年度までに、新興国・途上国の無電化地域に 10 万台のソーラーランタンを寄贈するプロジェクトを進行中である。これまでに、カンボジア、ミャンマー、インド、ケニアで活動する NPO / NGO、人道支援機関、社会的企業、国際機関などを中心に、特に医療、教育分野で活動する団体に 2 万台を寄贈し、大きな活用効果を見出している。

パナソニックは、創エネ・蓄エネ・省エネというエネルギーマネジメント事業をグローバルに展開しており、ソーラーランタンもまさしく、無電化地域の様々な社会課題解決に貢献するためのエネマネ関連商品である。

教育分野での成果として、寺子屋での夜間の識字教育、昼間でも薄暗い学校教室での授業、孤児院での夜間の学習というような子どもたちへ直接灯りを届けること以外にも、学校の先生が翌日の授業の準備のために夜の時間を効率的に使えるようになった。また、一般家庭でも昼間働くお母さんが夜間に子どもに文字を教える時間ができるようになったなど、大人の生活改善にもつながっている。

また、医療分野では夜間の妊産婦の診療という直接的な医療行為の場面以外にも、夜間に一般家庭の看護に向かう保健ボランティアの夜道を照らすという安全面での効果も報告されている。

このように、現地で活動する団体との協働により、自社の事業を活用した企業市民活動が展開できるようになった。このソーラーランタンは、台風や地震などで無電化状況になった被災地への支援にも活用され効果を上げている。

このようなプロジェクトでは、私自身もアフリカやインドの無電化地域に飛び出して行くが、時に水もトイレもなく非常に厳しい環境にも遭遇する。しかし、現地の社会課題に関しては、現地に飛び込んで、見て感じてこそ様々な気付きがあり、次のアクションに結び付くものである。同時に、無電化地域の人々からは、現地コミュニティ特有の様々なアイディアも出てくる。医療用ワクチンの保管庫として設置した冷蔵庫は、山羊ミルクを長期冷凍保存するために使われていたこともある。



医療現場でのソーラーランタンの活用

(写真提供元:特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン)

このように、双方の経験の共有こそがイノベーションに進化すると思うのである。

新興国 NGO プロボノ、 イノベーションワークショップ

社員が参画するボランティア活動の新しいかたちとして、ここ数年「プロボノ」が注目されてきた。それは社員が本業での経験やスキルを活かして様々な社会課題の解決に貢献しつつ、人材育成、事業機会の開拓につながる活動である。

パナソニックは、日本国内では11年度から、海外地域では12年度から社員の派遣を開始し、これまでベトナム、インドネシア、インドに計8名を派遣した。これは社員自らが夏季や冬季の長期休暇やボランティア休暇を活用して自主的に参画するプログラムだが、会社は社員協働先の国際NGOとのコーディネート役を担っている。

ユニークな試みとして、新興国で活動する社員を日本から応援するリモートメンバーも同時に募集し、チームとして活動している。日本にいるリモートメンバーも現地の課題を共有でき、現地でも活動する社員も、自分だけでは解決できない課題をリモートメンバーから衆知を集めて解決策を考案している。

社員が自主的に参画するもう1つのプログラムとして、イノベーションワークショップという活動を展開している。新興国・途上国の抱える社会課題に取り組むNGOなどから講師を招いて話を



寺子屋でのソーラーランタンの活用

聞き、現地視点に基づいた課題解決プランを社内の様々な事業部の混成チームが立案するものだ。すでに、このワークショップの提案から事業化検討が開始された事例も出ている。

このような活動を支える背景には、「世界文化の進展に寄与したい」という社員一人ひとりの熱意は言うまでもない。加えて、その熱意をひと押しする社内の環境整備、さらには、ステークホルダーとしてのNPO／NGOとの協働の中から、長年かけて構築してきたパートナーシップ（“Panasonic NPO サポートファンド”ほかのプログラムによるNPO／NGOのキャパシティビルディングへの取り組み）などが根底にあるものと思う。

このほかにも、エコラーニングプログラム（環境学習）、エコリレー・フォー・サステナブル・アース（環境活動）など、パナソニックグループとしてグローバルに展開する様々な企業市民活動を通して、今後も持続可能な社会の実現に向けて、一企業市民としての社会的責任を果たしていきたいと思う。

◆ソーラーランタン 10万台プロジェクト
<http://panasonic.net/sustainability/jp/lantern/>

◆新興国 NGO プロボノ

<http://panasonic.co.jp/citizenship/pivot/index.html>

◆経営理念とサステナビリティ

<http://panasonic.net/sustainability/jp/management/philosophy/>